

# 医療と福祉の融合サービスを視野 利用者重視の総合施設をオープン

医療と福祉の在り方について、さまざまな議論が成されている。  
愛広会が開設した医療・福祉一体型の新施設は事業者からの1つの回答であろう。  
ヤマダ電機新潟営業所はこのオープンを各種の設備提案で側面支援した。

3月にオープンした豊浦病院 / 豊浦愛広苑



かも、医療業界は取引先については保守的に対応する傾向にある。

その一方で、時代変化の波は医療業界にも押し寄せており、病院間の競争も始まっている。「従来通りのやり方を踏襲するだけで、本当に勝ち残れるのだろうか」との疑念が強くよぎったという。

自身が個人的な買い物をする際には、複数の量販店を使い分けている。この自然な消費者感覚を、これからの病院経営にも活かさなければとの思いが、新たな購入先としてヤマダ電機を選んだきっかけだった。

## ヤマダ電機の提案力

ヤマダ電機が豊浦病院 / 豊浦愛広苑に納入した備品は主なものだけでも介護ベッド(300台)、薄型大画面テレビ(12台)、冷蔵庫(22台)、ビデオデッキ(22台)、ポット(28台)などと多岐にわたっている。

この中でも注目できるのは介護ベッドであろう。ヤマダ電機でこうした機器を扱っていることは、まだあまり知られていない。だが、納入を担当したヤマダ電機新潟営業所の坂

## 医療と福祉の総合施設

「ヤマダ電機さんと仕事をしたことは間違っていなかった。価格の安さもさることながら、次から次へと提案が出てきた。厳しい競争を続ける企業の仕事振りを垣間見て、大変刺激になった。」

こう語るのは医療法人愛広会(新潟県)の福島正日常務理事だ。愛広会はこの3月、医療と老人福祉の複合施設「豊浦病院 / 豊浦愛広苑」をオープンした。延べ床面積約3400坪の7階建てで、1~4階が病院(180床)、5~7階が介護老人保健施設(100床)という大規模な施設だ。医療と介護は適用される保険が異なることもあり「豊浦病院 / 豊浦愛広苑」のような複合施設はまだ少ない。

だが、利用者やその家族からすれば、国が定めた医療と介護の境界線は問題ではない。医療であれ介護であれ、利用者とその家族にとって必要とされるサービスこそが重要である。そのためには、医療と福祉へ総合的に対応できる施設が不可欠だ。その意味で豊浦病院 / 豊浦愛広苑は、利用者の立場からオープンした画期的な施設といえよう。

施設の建設に先立ち、福島常務理事はベッドや家電など備品の購入先をどうするか、頭を悩ませたという。ベッドだけでも300台は必要であり、投資額も数千万単位になる。慎重にならざるを得なかった。

愛広会が新潟県内に多数の医療施設を展開している関係から、備品の購入先なども既存ルートがある。し

愛広会の福島常務理事





ヤマダが提案した介護ベッド「マーキスベッド」



プラズマを設置した豊浦病院のロビー

井敦所長は「お客様から期待されるのはトータルなコーディネート力。最適な商品が見つかるまで、どんな労も惜しまない」と話している。

新潟営業所が提案した介護ベッドは「マーキスベッド」だ。ベッドブランドとしては新進気鋭の存在で、床からベッドボトムまでの高さが22.5cmという超低床が特徴だ。この低さをロック式キャスター付きで実現した初のブランドであり、患者の乗降負担を最小限にするものとして、医療・福祉業界ではにわかに注目され始めている。

「新たな医療に挑む豊浦病院には、マーキスこそ最適と考えて積極提案した」と新潟営業所の伊藤元隆営業開発マネージャー。数ある大手ブランドの中からマーキスを選んだ愛広会も、「利用者の側に立った扱いやすさは、従来のブランド以上」と高く評価している。

そもそも病室の限られたスペースにベッドや棚、テーブルやテレビなどをレイアウトする場合、個別に業者へ発注するのと一括発注するのでは、スペース利用の効率性がまったく違ってくる。伊藤マネージャーは部屋やベッドのサイズ、通路の広さなどを起点に、そこから最適なサイズ、機能、価格の備品をシステム提案した。この積極性が、冒頭の福島常務理事の評価につながったのであろう。

### 愛広会のミッションとは

愛広会は、医療・福祉分野の大学・専門学校と密接な関係を持って

いる。施設作りと並行して人材養成も重要だと考えているからだ。

福島常務理事の前職は教育関係で、専門学校などに勤務していた。当時から理念に「生涯教育」を掲げていたという。「人が生まれてから死ぬまでの全サイクルにおいて、役立つサービスを展開するというミッションは、当時から一貫している」(福島常務理事)

現在、新潟県を中心に医療福祉分野の専門学校、大学、病院、診療所、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、身体障害者療護施設、保育園などを幅広く展開するのは、この理念がベースになっているからだ。

しかも、単なる多角展開ではなく、各施設の有機的な連携が特徴である。例えば「新潟医療福祉大学」は医療・福祉の有能な人材育成を目的としており、その機能的付属病院として「新潟リハビリテーション病院」がある。同病院は医療を通じた患者の社会復帰支援を目的としつつ、一方で大学の実習病院としての機能も果たしている。

そして病院に入院する必要はないが、介護を必要とする高齢者のための施設が複数の介護老人保健施設である。関係する教育機関はこうした施設や地域の各施設へ有能な人材供給を担っている。まさしく「人材育成と施設の運営は車の両輪」(福島常務理事)というわけである。

この3月にオープンした豊浦病院/豊浦愛広苑は、こうした理念を医療・福祉の面から集大成した施設で

ある。医療と介護という2つの制度で単純に線引きするのではなく、個々の患者・入所者に応じた最適のサービスを提供しようというコンセプトだ。

地域医療・福祉・保健サービスの分野では、病院相互間、病院・診療所間など、医療機関と福祉施設間の役割分担や、その連携が強く求められている。これは個々の患者・入所者とその家族のニーズである。「豊浦病院/同愛広苑は、そういう人たちための施設である」と福島常務理事は語っている。

こうした理念を掲げ、最良のサービスを提供しつつ、その一方で事業体としての経営を成り立たせることも、福島常務理事の役割である。

医療保険も介護保険も、今後は国民の金銭的負担が増大方向にある。そうなれば消費者の施設選びの目は、さらに厳しくなるだろう。現代の病院や介護施設運営とは、こうした時代の中での勝ち残りが求められる。「ヤマダ電機という異文化に接するよい機会になった」という福島常務理事は、「この経験を活かして、自分たちの新たなサービスを考えたい」と語っている。



坂井所長(右)と新潟営業所のスタッフ  
(ヤマダ電機新潟営業所の連絡先は、TEL 025-234-5553 / Eメール jb-niigata@tecc.ne.jp)